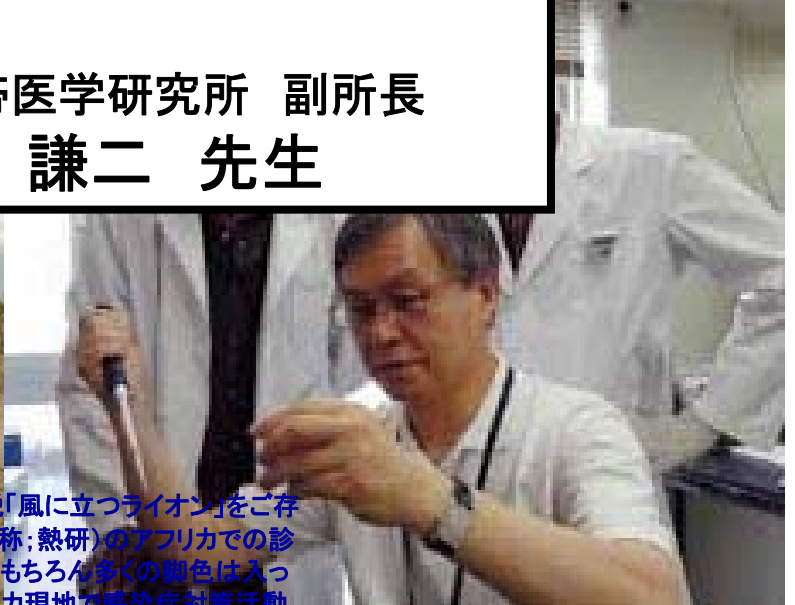




脳研究所創立記念講演会

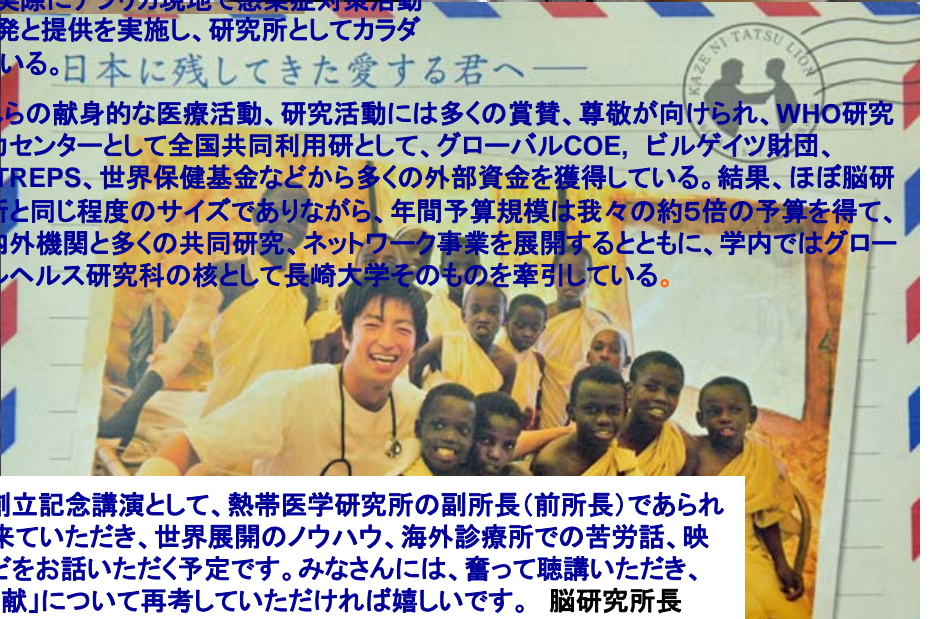
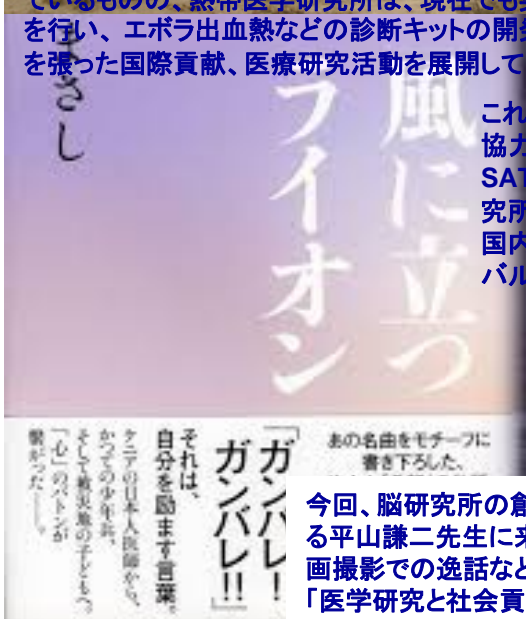
6月13日16PM～ 脳研・検討会議室

長崎大学 熱帯医学研究所 副所長
平山 謙二 先生



皆さんは さだまさしが1987年に発表した名曲とその小説「風に立つライオン」をご存知でしょうか？ この話は、長崎大学熱帯医学研究所（通称：熱研）のアフリカでの診療活動を基にした小説で、東宝は昨年、映画化している。もちろん多くの脚色は入っているものの、熱帯医学研究所は、現在でも実際にアフリカ現地で感染症対策活動を行い、エボラ出血熱などの診断キットの開発と提供を実施し、研究所としてカラダを張った国際貢献、医療研究活動を展開している。日本に残してきた愛する君へ――

これらの献身的な医療活動、研究活動には多くの賞賛、尊敬が向けられ、WHO研究協力センターとして全国共同利用研として、グローバルCOE、ビルゲイツ財団、SATREPS、世界保健基金などから多くの外部資金を獲得している。結果、ほぼ脳研究所と同じ程度のサイズでありながら、年間予算規模は我々の約5倍の予算を得て、国内外機関と多くの共同研究、ネットワーク事業を展開するとともに、学内ではグローバルヘルス研究科の核として長崎大学そのものを牽引している。



今回、脳研究所の創立記念講演として、熱帯医学研究所の副所長（前所長）であられる平山謙二先生に来ていただき、世界展開のノウハウ、海外診療所での苦労話、映画撮影での逸話などをお話いただく予定です。みなさんには、奮って聴講いただき、「医学研究と社会貢献」について再考していただければ嬉しいです。脳研究所長